

「梶原くんのレストラン」

梶原／かじわら

浦辺／うらべ

西尾／にしお

梶原宅

梶原 どうぞどうぞ。

浦辺 へえ綺麗にしてるじゃん。

梶原 今日は人が来るからだって。ごめんねワザワザ試食に来てもらっちゃって。

西尾 いやいや、俺達も梶原君の料理すげー楽しみにしてるから。な？

浦辺 おお・・・なんか西尾がこの間食ったんだって？

西尾 うん。食った食った。

梶原 そうそう。でもやっぱり色んな人の意見聞きたいから、浦辺君も来てくれて嬉しいよ。

浦辺 おお・・・。

梶原 どうぞ座ってて。今お茶出すから。

西尾 あーいいっていいって。それよりお腹ペコペコ。

梶原 そっか。じゃあすぐ料理出しちゃうね。ちょっと待ってて。

梶原がキッチンに向かう。

浦辺 西尾・・・本当かよ？

西尾 うん・・・梶原君の料理さ、まずいんだよね。

浦辺 そうなの？

西尾 うん。いや、厳密には不味いわけじゃない。不味い訳じゃないけど・・・旨くない。

浦辺 あー。

西尾 それで脱サラしてレストラン開くとか言ってるからさー。止めた方がいいと思うんだよね。

浦辺 ・・・・で、俺を呼んだの？

西尾 そう。梶原君の料理さ、不味いって言ってあげてよ。

浦辺 自分で言えよ。

西尾 いや折角作ってもらった料理に不味いとか言えないじゃん？俺そういうの凄く苦手なんだよ。でも浦辺は、そういう心ない事をズケズケ言えるタイプじゃん？

浦辺 今お前が心ない事言ってるじゃん！

西尾 いやいや、浦辺はね。浦辺は別だよ。だって浦辺は悲しむ心とか持ち合
わせてないだろ？

浦辺 お前すげーズケズケ言ってるじゃん！

西尾 まあまあ、まあまあ。少なくとも梶原君はいい人だから。言い難い
んだよ。

浦辺 俺だって言い難いよ。

西尾 そうだろうけど！そうだろうけどさ！そこを頼むよー。

浦辺 えー？

西尾 あ、じゃあもし、万が一、梶原君の料理がうまいなんて事がありえたら、
そんな奇跡があり得たら、言わなくていいよ。ま、そんな奇跡は無いけ
どなあ！

浦辺 お前なんなんだよ。もうそんな状態なら直接言えるだろ。

西尾 本人には無理だよ。

梶原 お待たせー。

西尾 あ、来た来た。頼むよ。

梶原が料理を持って来る。

梶原 お待たせしました。はい、これ前菜ね。

西尾 いただきます。

浦辺 いただきます。

西尾と浦辺食べ始める。西尾はちよくちよく浦辺を見ている。

西尾 ……うん。……うん。

浦辺 ……あー。……あー、はいはい。

梶原 ……どう？

浦辺 うん。……あー、うん。

西尾 はいはいはい。

浦辺 ちょっと水もらっていい？

梶原 あ、ちょっと待ってね。

梶原が二人分の水を持って来る。

西尾 あーありがとう。

浦辺 ありがとう。

浦辺が水を飲み、もう一度料理の味を確かめる。

浦辺 うん。・・・これ間違いないな。

西尾 うん。・・・うんうん。

梶原 ・・・で、どう？

西尾 あー・・・うん。美味しかったよ。

浦辺 ！？

梶原 本当？

西尾 おう。これ旨い、これ。これチーズが旨いね。

梶原 良かったー。浦辺君は、どうだった？

浦辺 ・・・うん。

西尾 浦辺、正直に言えよー。お前が、思った事を、正直に言えよー。梶原君は色んな意見聞きたいんだから。ねえ？

梶原 うん。

西尾 はい言質とったー。梶原君は色んな意見が聞きたい、言質とりましたー。さあ！さあ浦辺！言ってみよう！言ってみてみよう！言・・・ってみよう！

浦辺 お前うるさいよ。

西尾 OK！

西尾、マイムで浦辺に「言え。」とプレッシャーをかける。

浦辺 ・・・うん。なんて言うかね・・・んー、味が足りないよね。

梶原 味？・・・薄い感じする？

浦辺 薄いっていうか、ひと味足りない。全体的に。このかかっているフレンチドレッシングに胡椒とか入ってる？

梶原 入ってるよ。

浦辺 じゃあ量が少ないのかな。パンチが弱いよね。

梶原 そっかあ。

梶原、メモをとる。西尾も聞きながら納得のマイム。

浦辺 あとこのピクルス。

梶原 あ、それ自分で漬けたんだ。

浦辺 だよな。ピクルスって酢漬けだけどさ。本当に酢だけで漬けたような味だよな。キュウリ！酢！って感じる。

梶原 うーん・・・ちよっと素材の味を大事にしようっていう気持ちがあるのかな？

浦辺 そうだね。カプレーゼに塩味が無いところとかね。そういう何か足りない物が多いんだよね。

梶原 あー・・・

浦辺 うん。この皿全体で言うと、不味くはないけど旨くもない。

西尾、梶原に見えないように「それだー！」というマイム。

梶原 ・・・・そっかー、ごめんね。・・・足りない・・・あー、足りない感じなんだねー・・・(唇を噛み締める)・・・うん・・・つごく、参考になった・・・本と、本当にありがと・・・。次の料理、ちよっと味みてくうよ。あ、お皿あ、片つけうね。

梶原が涙目で皿を持って奥に下がる。

浦辺 ・・・・すげー気まずいよ！

西尾 そうだろうな。すげー言うなーって思ったもん。

浦辺 やっぱ言い過ぎたかな。

西尾 いや、いいんだよいいんだよ。アレぐらい言った方が。二度と包丁が持てない体にしてやろうぜ。

浦辺 やりすぎだよ。

西尾 (包丁を持つとうとして持てないマイム) あ、あ、あ、あ、って。包丁？あ、あ、あ、って。

浦辺 そんなトラウマ植え付ける必要ないだろ。嫌だよ。

西尾 いいっていいって。植え付けよう。

浦辺 嫌だよ！てか、そういうお前は褒めてんじゃん。

西尾 褒めてるよ。

浦辺 褒めんなよ。

西尾 なんでだよ。

浦辺 え？料理辞めさせたいんだろ？

西尾 辞めさせたいよ。

浦辺 じゃあ褒めんなよ。

西尾 ・・・俺褒めて辞めさすタイプなんだよ。

浦辺 どういうタイプだよ！どういうシステムで辞めさせるんだよ！

西尾 いや、すごい褒めんだよ。すごい褒められると「そこまででもないんだよな」。そんなに言われると凄いプレッシャーになるんだよなあ。

あ！重い！プレッシャー凄く重い！このプレッシャー凄く重いもうやだー！」って思って辞めたくなるじゃん？

浦辺 ならねえよ！

西尾 な？そういう飴とムチで、

浦辺 意味が全然違う。

西尾 辞めさせました。

浦辺 まだ辞めてない。まだ終わってない。

西尾 とにかく浦辺は今の感じですがー言っているいいから。梶原君が脱サラとか料理とか辞めるようにガンガン言って。俺は褒めるから。

浦辺 お前ズルいよ。

西尾 いいから。

梶原 おまたせー。

浦辺 いや、

西尾 いいから！頼むよ。

梶原が料理を持って来る。

西尾 お、旨そーだねー、これも！
梶原 ありがとう。ちゃんと味見たから今度は口に合うといいんだけど……。
浦辺 お、おう……。
西尾 じゃあいただきますーす！

西尾と浦辺食べ始める。心配そうに見ている梶原。

西尾 ……うん。……あーうん。
浦辺 ……。
梶原 ……どう？
西尾 うん。……あー、旨いなー！
梶原 そう？
西尾 これも旨いよ！梶原君料理上手だなー！
梶原 あー良かった。……浦辺君は、どうだった？
浦辺 ……うん。

唇を噛んで耐える梶原。

浦辺 ……これ旨いなー！
梶原 ……本当に！？
浦辺 ううん……これ旨いよー！
梶原 良かったー！
浦辺 これえ……梶原君料理の天才だなー！
梶原 ありがとう！良かったー！さっきの料理が口に合わないみたいだからちよっと心配だったんだよね。
浦辺 これは……美味しいねー！
梶原 良かったー！口に合って良かったー！あ、ゆっくり食べて。次、メイ
ンだから。ちよっと準備して来る。

嬉しそうに去る梶原。

西尾 うん、待ってるー！……おおい！なに日和ってんだよお！ちゃんと不

味いっていえやあ！

浦辺 何で切れてんだよ。

西尾 お前が梶原君の料理不味いって言わねえからだろうが。梶原君の料理が
あ！・・・不味いっていわねえからだらうがあ！

浦辺 お前なんなんだよ。

西尾 えー？ダメだろ？梶原君自分の料理にちょっと自信持っちゃったんじゃない？お前梶原君が脱サラしてレストラン始めちゃったらどうするの？
どう責任とるの？一緒にダンボールで家作ってあげるの？

浦辺 お前の中で梶原君の脱サラはホームレス確定なの？

西尾 確定だろ。一直線だろ。なんならもう、ちょっとホームレスだよ。

浦辺 ホームレスじゃねえよ。ちよっともホームレスじゃねえよ。なんだ「ちよっとホームレス」って。

西尾 それぐらい危機感持って事だよ。お前の一挙手一投足に、梶原君の未来がかかっているんだよ。もっと梶原君の事、心配してやれよ。

浦辺 お前が褒めてんのはいいのよ。

西尾 それはしょうがないだろ。俺気まずいんだから。

浦辺 俺だって気まずいよ！

西尾 はいはい。はいはいはい。

浦辺 なんて信じないんだよ！気まずいよ！

西尾 それは我慢しろよ。いいか？お前が気まずい思いをしたくないばっかりに、このまま梶原君がレストランを開店したら、何百、何千、何万人もお客さんが気まずい思いをするんだからな！

浦辺 そんなに流行ってるならいいじゃねえか。

西尾 まあなんやかんや言ったけども、なんやかんや梶原君が料理持って来るから、なんやかんや食べて、俺もなんやかんや言うから、お前もなんやかんや、梶原君の心にトドメを刺せ。

浦辺 俺の目的だけ急に具体的！

西尾 まあまあ、

梶原 お待たせー。

梶原が料理を持って来る。

西尾 お！これも美味しそうだね！

梶原 そうでしょ？実はこれ、ちよつと、特別な料理なんだ。

浦辺 特別？

梶原 そう。俺のパパが、小さな洋食屋をやってる話はしたよね？

西尾 ううん、初耳。

梶原 オッケー。やってるんだけど、これはその店で一番の人気メニュー。そして、俺の一番好きな料理なんだ。浦辺君も聞いているかも知れないけど、俺、仕事辞めようと思ってるさ。・・・実は今、パパが入院してるんだ。いつ退院出来るかも判らないから店を閉めようって話になってるんだけど・・・あの店が無くなったらパパも居なくなっちゃう気がしてね・・・だから俺、店を継ごうと思うんだ。それで二人に色々食べてもらって、感想聞いてたんだ。まだまだ至らない点があるのも判ってるんだけど、それでも、パパが作った中で俺が一番好きなこの料理を、美味しいって言って貰えたら、自信を持って店を継げらと思う。これは、俺とパパを繋ぐ料理だから。・・・さ、食べてみてよ。

西尾 ・・・じゃ、いただきます・・・。

浦辺 ・・・いただきます・・・。

　　気まずい顔の西尾と浦辺が食べ始める。

西尾 ・・・おお？・・・おお？

浦辺 ・・・おお・・・おお・・・これ、一番人気？

梶原 そう。

浦辺 ・・・おお・・・。

西尾 なるほどなあ！・・・そっかー！・・・。

浦辺 （水で口直ししてから食べる）・・・だよなー！

西尾 いやー、これはな！・・・うん！だよなー！

梶原 ・・・どう？

浦辺 ・・・。

西尾 ・・・うん、

　　両手を合わせ祈りのポーズをとる梶原。

西尾 ・・・・いやー！

浦辺 まっずー！

梶原 え？

西尾 おい、浦辺！

浦辺 まっずー！梶原君！梶原君の料理、全然旨くないよ！

梶原 浦辺君？

西尾 浦辺！

浦辺 なんかつ味がぼんやりしてるっていうか、さっぱりし過ぎてるっていうか、食べたいて気持ち全然わかないよ。これだったらコンビニ弁当の方がおいしいレベルだよ。

梶原 ・・・・(ほぼ泣き顔) そっかな？そんなに美味しくないかな？

浦辺 でも頑張れよ！

梶原 ・・・・え？

浦辺 梶原君の料理は旨くないよ！旨くないけど・・・でも頑張れよ！親父さん帰ってくるまで、店守らなきゃいけないんだろ？親父さんの為に、店残さなきゃいけないんだろ？今のままの、この料理じゃ、継いだって店は続かないよ。だったらもっと頑張って、うまい料理作ってくれよ！親父さんを越えるくらい、うまい料理作ってくれよ！

西尾 浦辺・・・。

梶原 ・・・・そっか、浦辺君にはこの料理、美味しくなかったんだね・・・。

西尾 梶原君・・・。

梶原 そっか・・・俺の料理は、パパみたいに旨いって言って貰えるような料理じゃないんだね・・・俺、料理向いてないのかもな・・・。

浦辺 梶原君・・・。

梶原 でもさ、浦辺君が言ったように、俺は店を守らなきゃ。パパが帰ってくるまで。美味しくないって言ってくれて、ありがとう浦辺君。俺、パパを越えるくらい、もっと頑張、

西尾 俺も旨くないと思ってた！

梶原 ・・・・え？

西尾 梶原君の料理、俺も旨くないと思ってた！

梶原 ・・・・え？二人とも・・・旨くないと思ってたの？

浦辺 思ってた。

西尾 厳密には旨くもなければ、取り立てて言うほど不味くもない、中途半端な料理だと思ってた！

浦辺 思ってた。

梶原 え？（浦辺に）旨くないと思ってたんだよね？

浦辺 思ってた。

梶原 で？西尾君も旨くないと思ってたの？

西尾 思ってた！前に食べた時も旨くはないと思ってた！

梶原 ・・・つまり、俺の料理は、現状・・・一〇〇パーセントの人が旨くないと思ってるって事？

浦辺 ・・・そうだよ。

西尾 もっと言えば、いっそもうちちょっと不味ければ、「不味い店」っていう売り出し方もあったのに、そこまですでもない、二つの意味で美味しくない料理だと思ってた！

梶原 ・・・。

西尾 でも頑張れよ！

梶原 ！

西尾 梶原君の料理はさ、お父さんとの絆なんだよ！簡単に、辞めるとか言うなよ！

梶原 言っけないよ？あれ？言った？俺言った？

西尾 今は中途半端な料理だけど、いつか、いつか必ず、梶原君の料理がおいしいって、「梶原君のお店、ショッピングモールのフードコートに出店しませんか？」って、「梶原君の監修で冷凍食品作りませんか？」って、言わせてみせようぜ！俺も応援するし！お父さんだって、梶原君の事、草葉の陰からずっと見守ってるよ！

梶原 生きてる。現状生きてるよ？

浦辺 フレー！フレー！かーじーわーら！

梶原 あ、うん、ありがとう。

浦辺 頑張れー！頑張れー！梶原！

西尾・浦辺 頑張れ頑張れ梶原！頑張れ頑張れ梶原！

梶原 うん、ありがとう。・・・なんかさ、俺の料理、美味しくないって言われて結構ショックだったんだけどさ・・・それでも、二人に食べてもらえ

て、感想聞けて・・・すごく、良かったよ。ありがとうね。

浦辺 うん。

西尾 よし・・・胴上げだな。

梶原 なんて？

西尾 こういう時は胴上げなんだよ。浦辺、やるぞ。

浦辺 おう！

梶原 いやいや、いって！いって！

西尾 いいから。ちょっと浮かすだけだから。

梶原 危ないって！

浦辺 いくぞー！

梶原 本当いって！怖いから！

騒々しい3人。

出来るならゆっくり暗転。